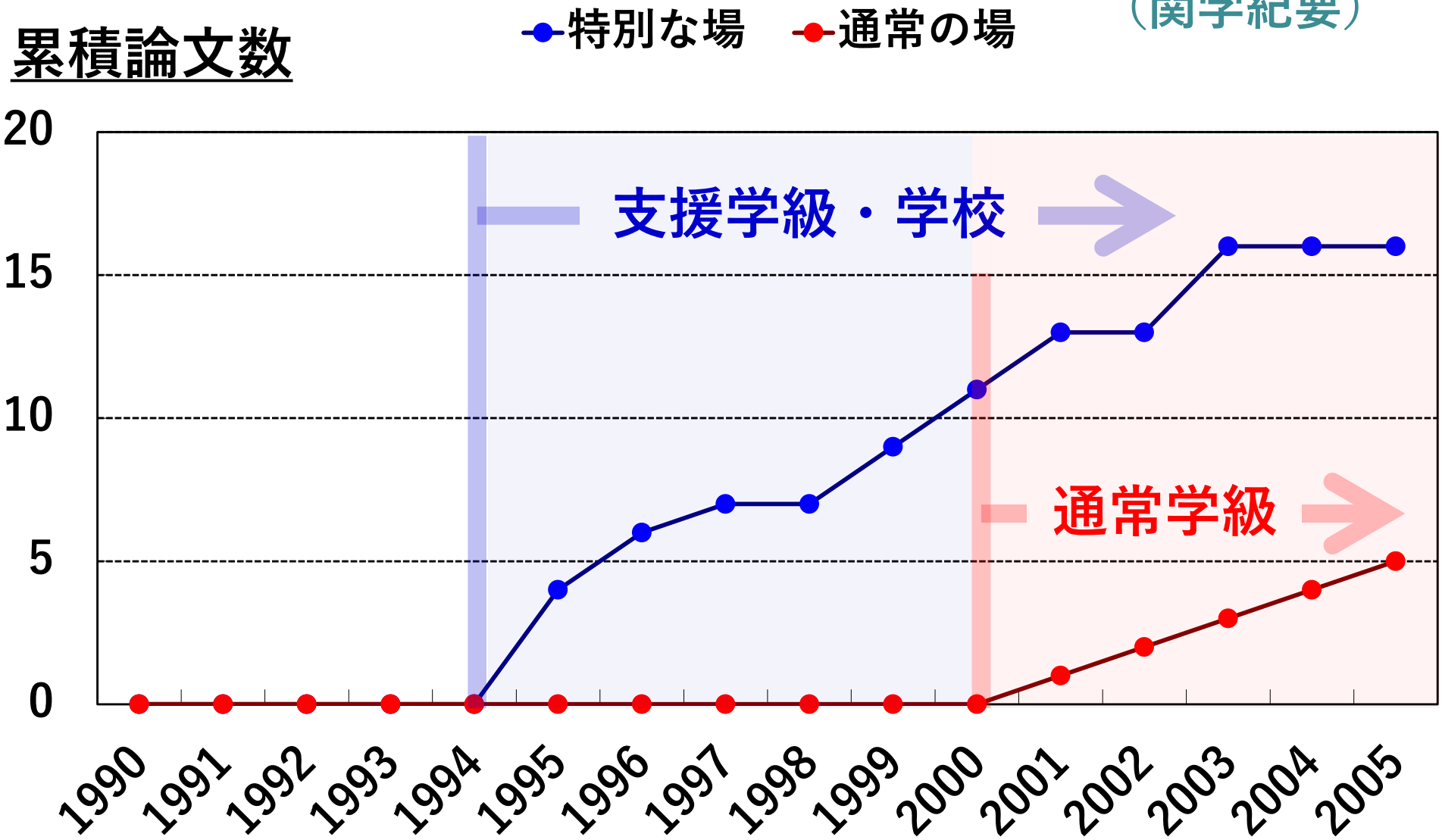
サイエンスアゴラ2018（RISTEXシンポ）

学校教育における発達支援
根拠に基づく実践の可能性

立教大学現代心理学部
大石幸二

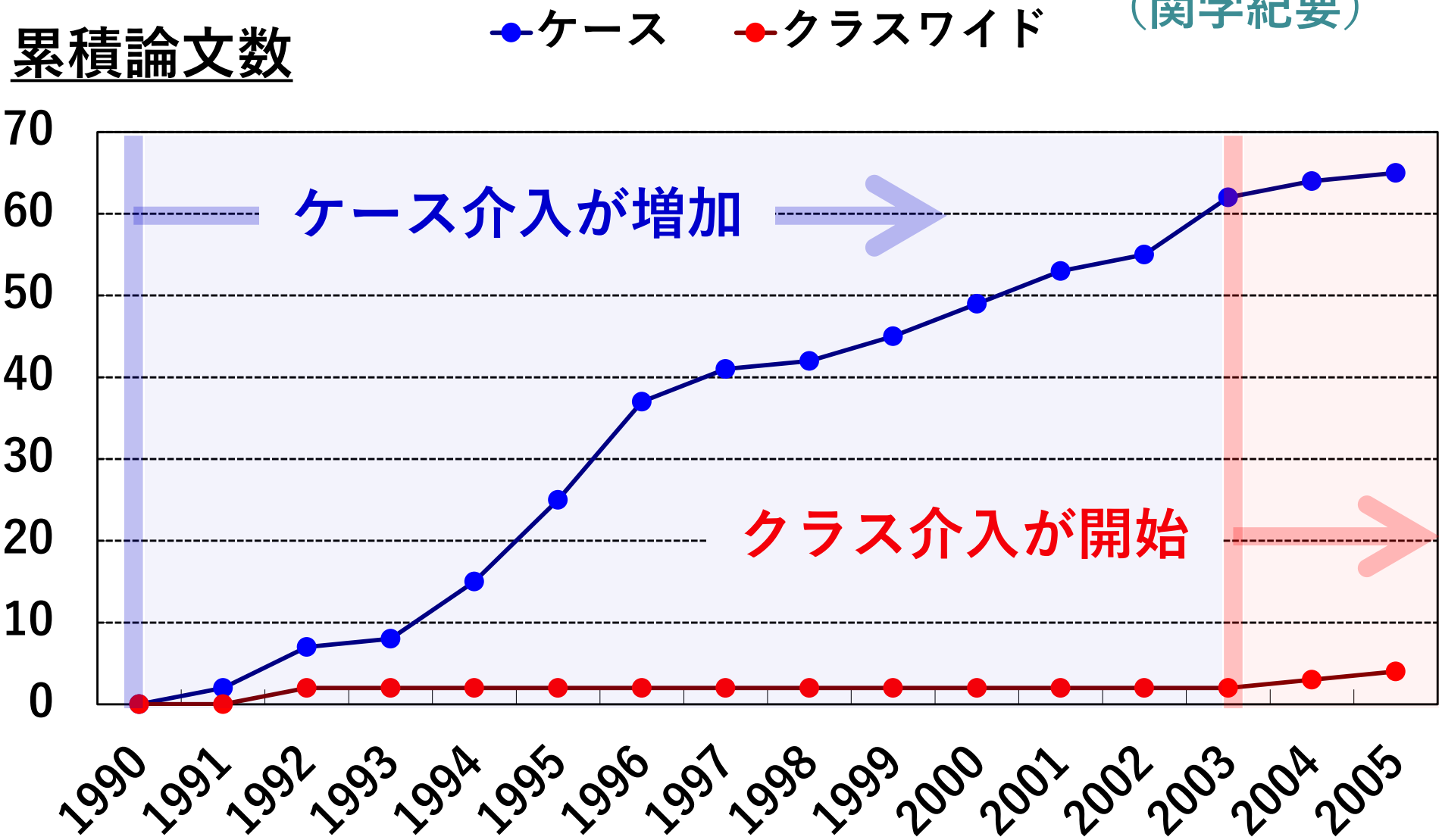
学校教育での発達支援：道城(2008)

（関学紀要）



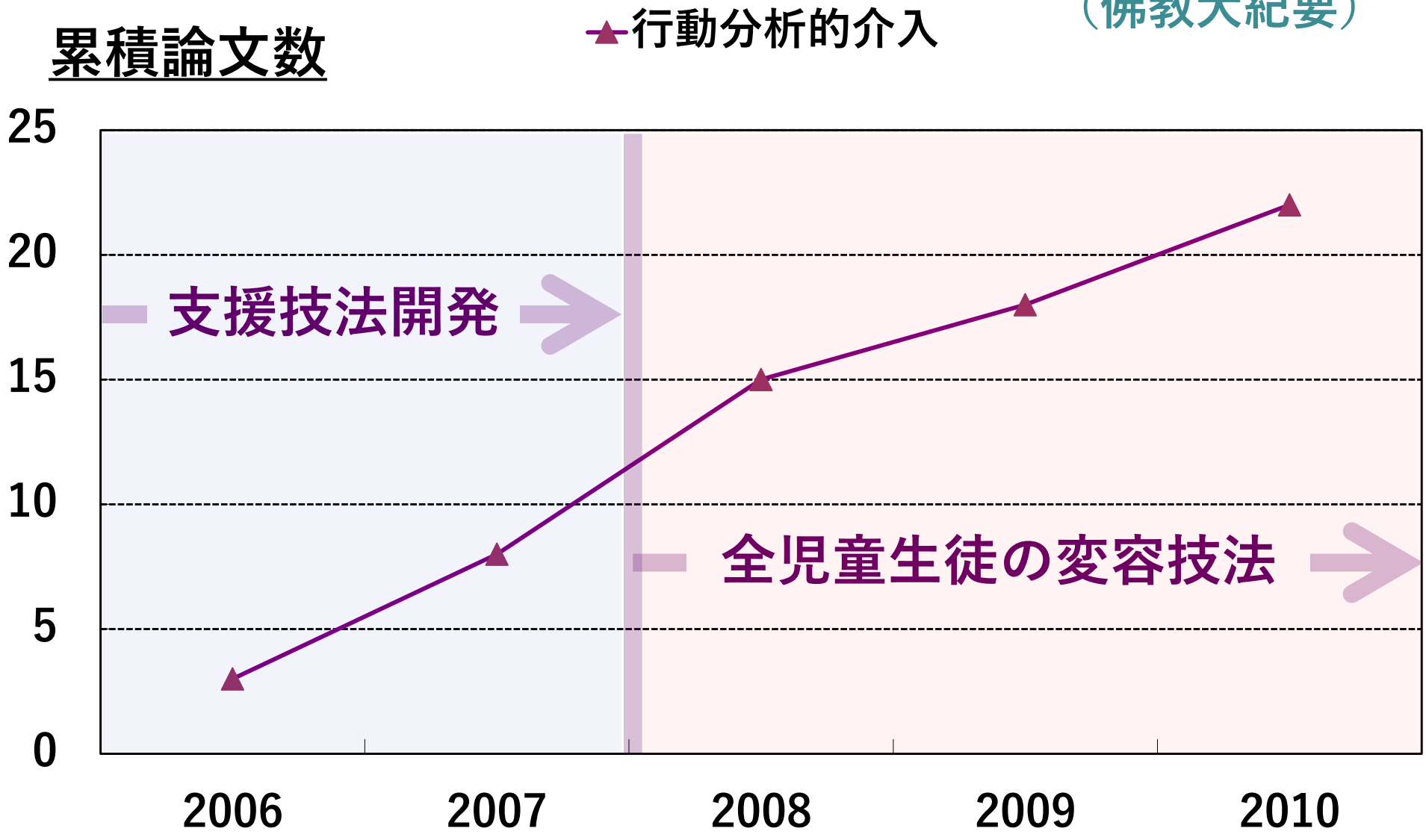
学校教育での発達支援：道城(2008)

（関学紀要）



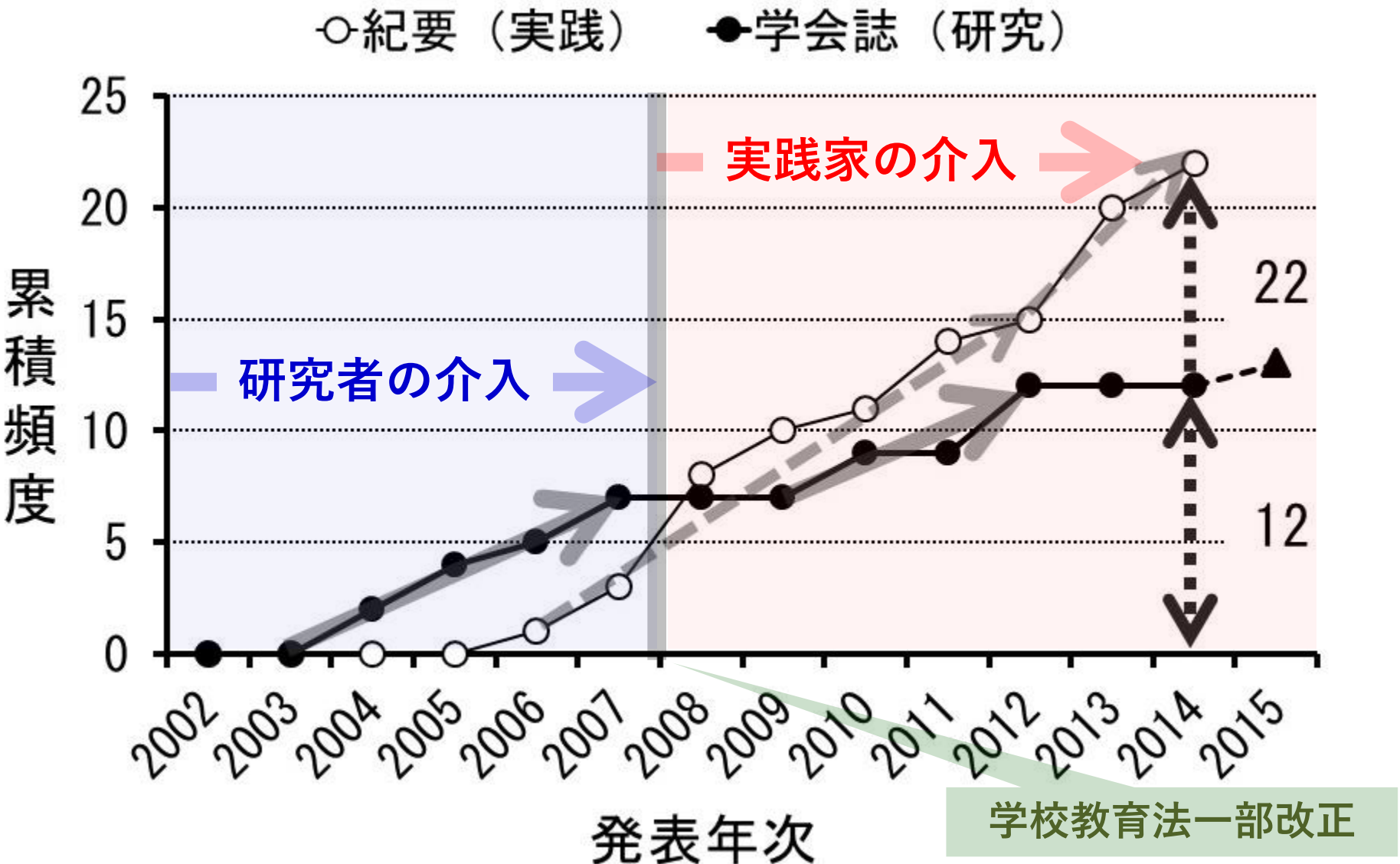
学校教育での発達支援：宮下(2011)

（佛教大紀要）



学校教育での発達支援：大石(2015)

（特殊教育学研究）



学校における発達支援の方向性

通常の学級を舞台にしながら

スクールワイドの視点を持ち

全校児童生徒の変容を目標に

実践家が現場で使える知見を

学校・教師に課されていること

- 読解力
- 道徳教育
- 教育的ニーズ
- 情報化
- グローバル化
- 人工知能
- 生きる力
- キャリア発達
- 社会を創る
- 主体的な学び
- 対話的な学び
- カリキュラム・マネジメント
- キャリア・パスポート（仮称）
- プログラミング的思考
- 非認知的能力
- 深い学び
- 授業改善
- 新たな価値

学校だけでは難しい発達支援

- 全入の公立高等学校（全日制普通科）
- いじめ被害経験を有する生徒が約20％
- このうち，約40％に発達障害や学習障害（＊特定領域における２学年以上の遅進）が疑われた。約15％は特別支援学級からの進学者で「要配慮」の生徒

（埼玉県教育文化研究所［2008］どうする？！高校における「特別支援教育」）

いじめ被害生徒に共通する事項

調査対象者数：87名

開始時期　小学校時代

背景要因　①意志伝達の困難

②非言語的伝達手段の不足

虐め態様　からかい，嘲笑，仲間外れ，身体暴力・攻撃など多様な態様を経験

防御因子　①行動の自己制御

②自己管理技能

③熱中できる活動（正課・課外）

（埼玉県教育文化研究所［2008］どうする？！高校における「特別支援教育」）

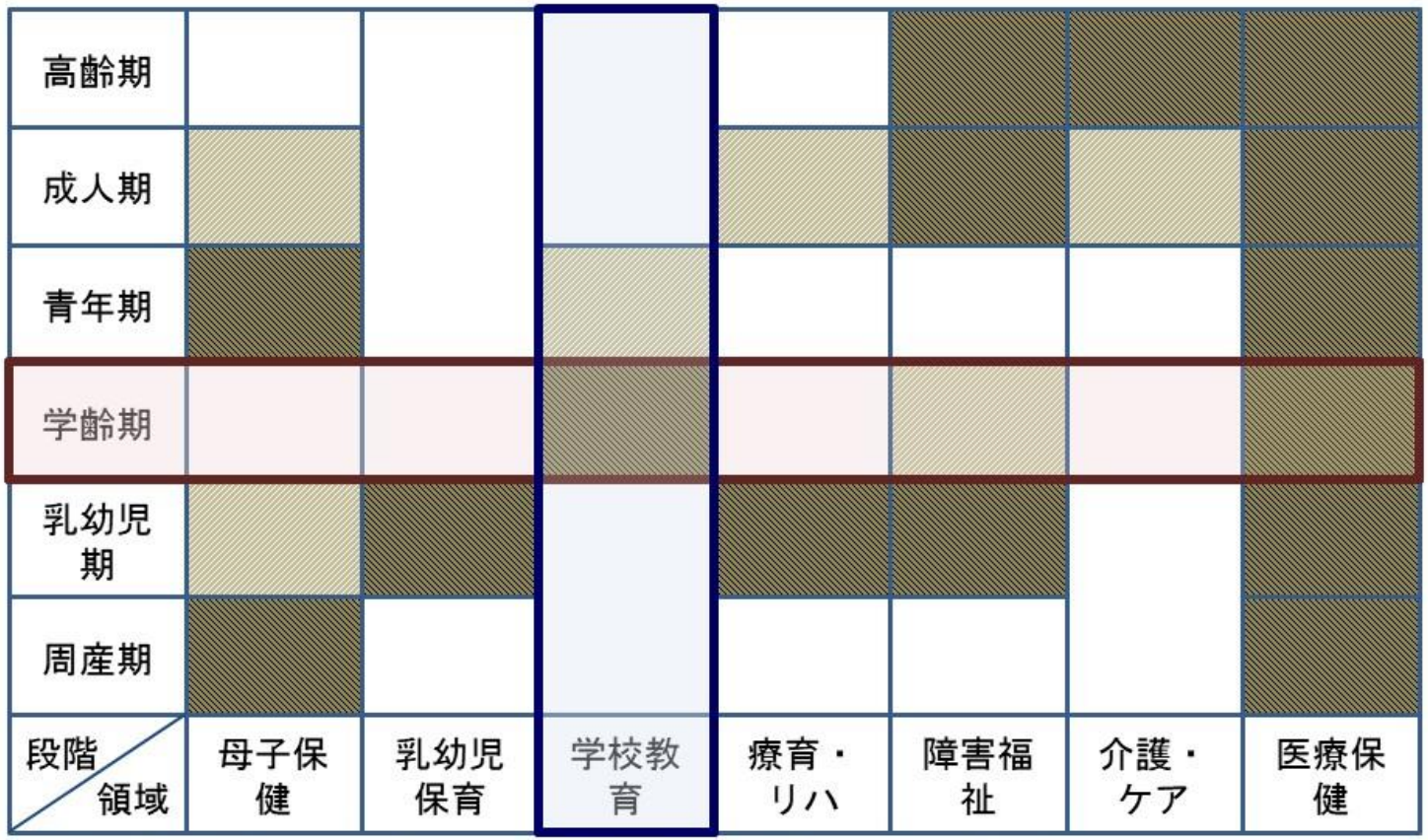
いじめ被害生徒の安定した予後

家庭環境	相互作用の安定性	家族関係調整
学業適応	達成経験の重要性	授業技術向上
情緒行動	行動調節力の向上	生徒指導＋α
社会関係	対人交流経験の量	学級経営＋α
特別支援	個別的な学習支援 作業学習での達成	的確な見とり 教材開発＋α

（埼玉県教育文化研究所［2008］どうする？！高校における「特別支援教育」）

学校機能強化のため連携が必要

学齢期の子どもが利用できる公的サービスは少ない



学校教育が他部局と横断型連携する機会が限られる

子どものこころの健康会議・こころの健康相談

・虐待予防対策 ・思春期（ひきこもり）相談 ・小児精神保健医療研修会

（埼玉県医療保健部・小児精神保健医療推進連絡会議 指導者）

第３期教育振興基本計画

・世界トップレベルの学力
・自己肯定・有用感の育成
・いじめの解決・解消
・学校のＩＣＴ環境整備促進
・生活保護世帯の進学支援
・グローバル人材育成

（埼玉県教育局・第３期埼玉県教育振興基本計画策定有識者会議 委員）

発達支援との重なりは

今後の障害児支援の在り方について

・児童発達支援ガイドライン（本人・家族・地域支援と自己評価の公表）
・放課後等デイサービスガイドライン（支援の質・説明責任・自己評価）

（埼玉県福祉局・埼玉県相談支援専門員協会 学識経験者）

その上で学校でできることは？

見たままに写す

↓

聴いてすぐ実行

↓

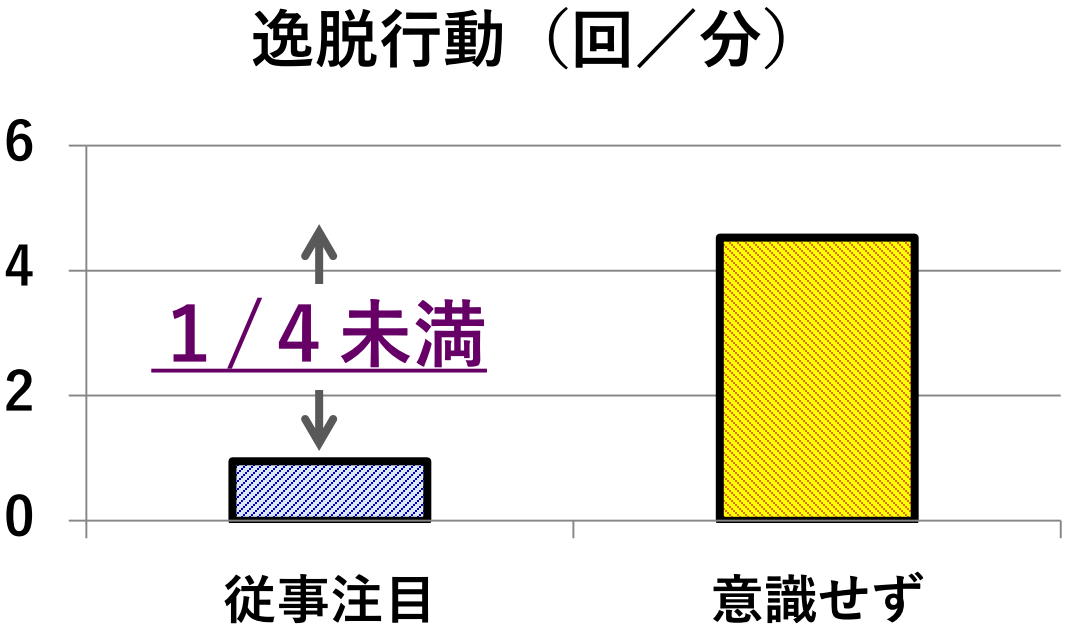
順を踏んで作業

↓

言葉による伝達

このような学びの技法の獲得と運用を動機づける

根拠：まなざし（*Hall, et al.*, 1971）

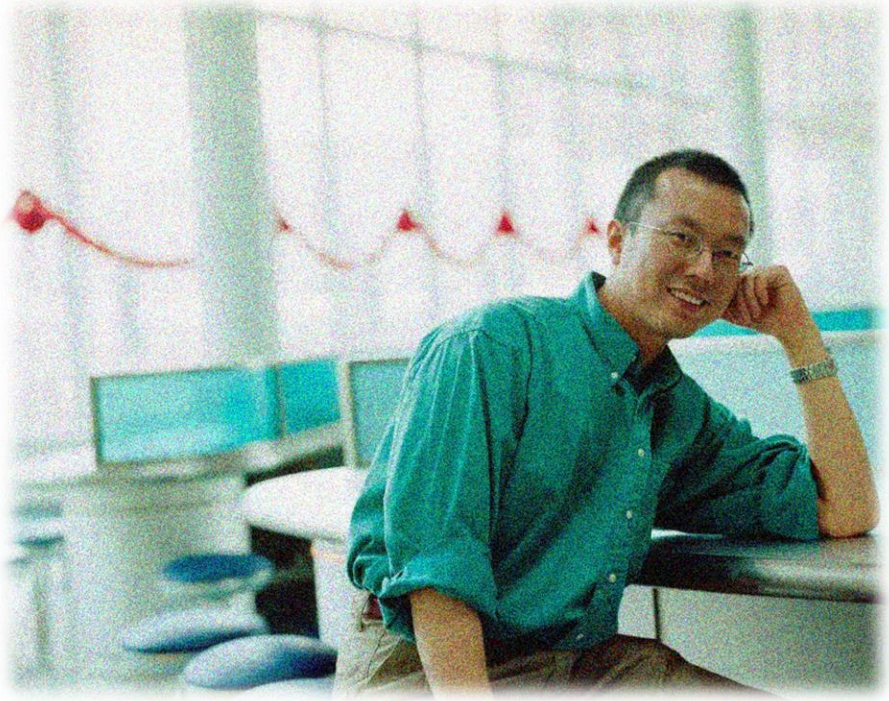


教師が児童生徒の課題従事に

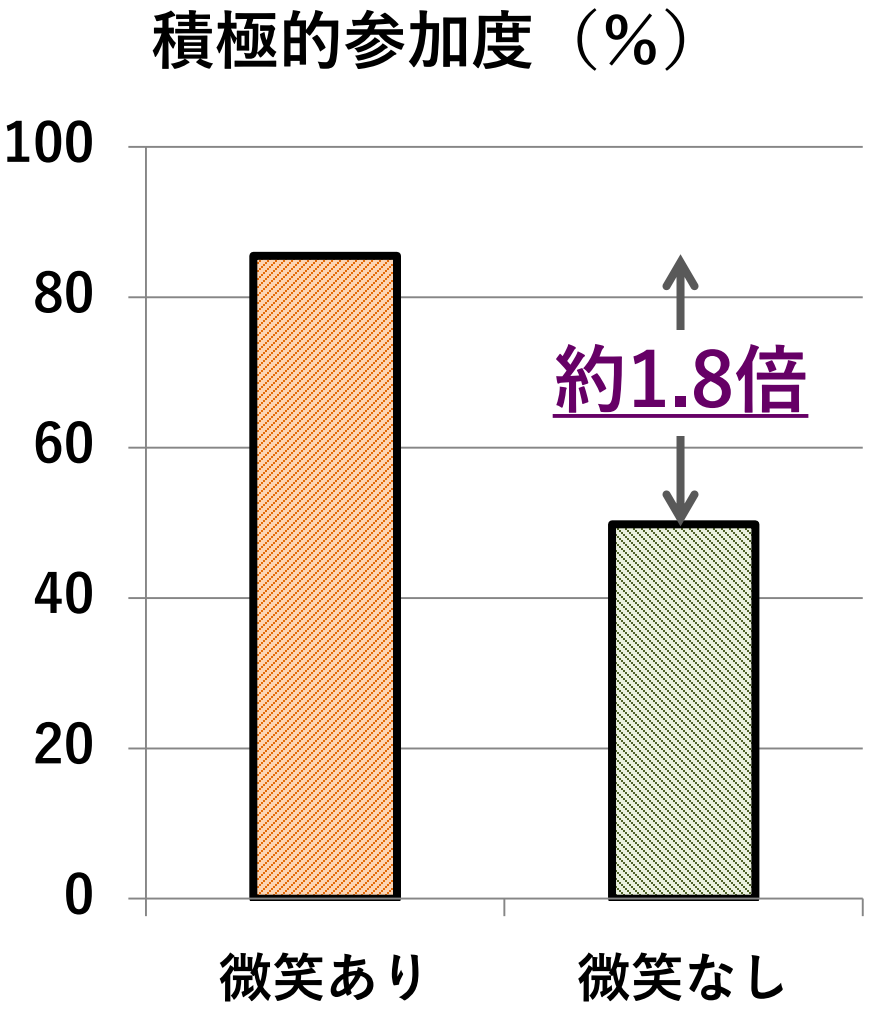
一貫して眼差しを向ける と

逸脱行動を減弱する効果あり

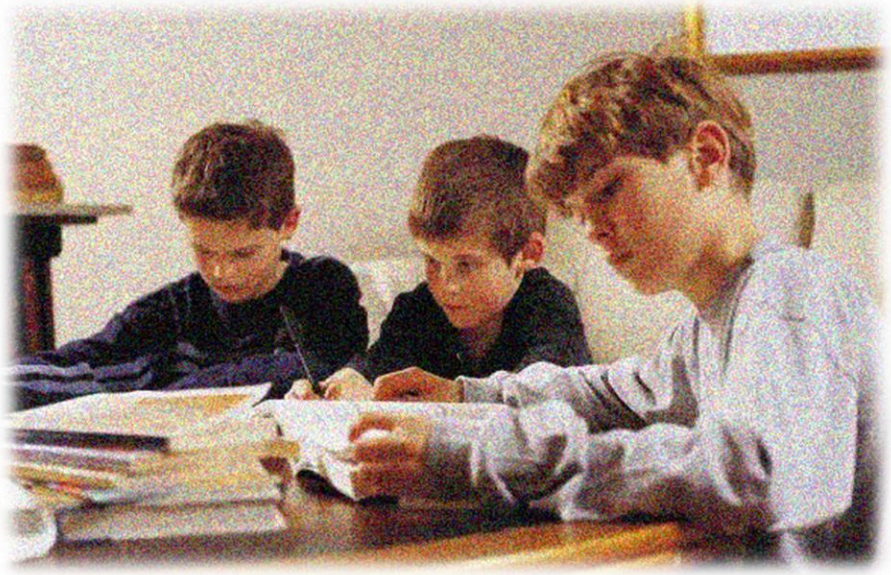
根拠：うけとめ（*Kazdin, et al.*, 1973）



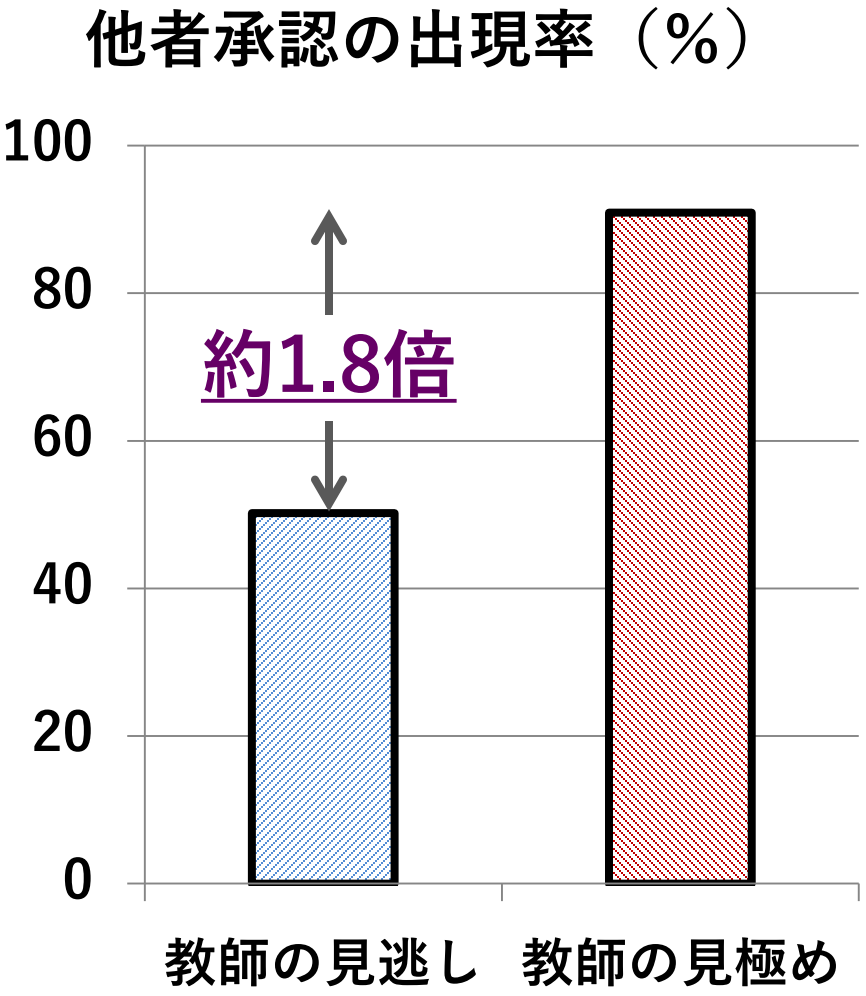
言語賞賛時の教師の微笑は、児童生徒の意欲・動機を倍増　させる



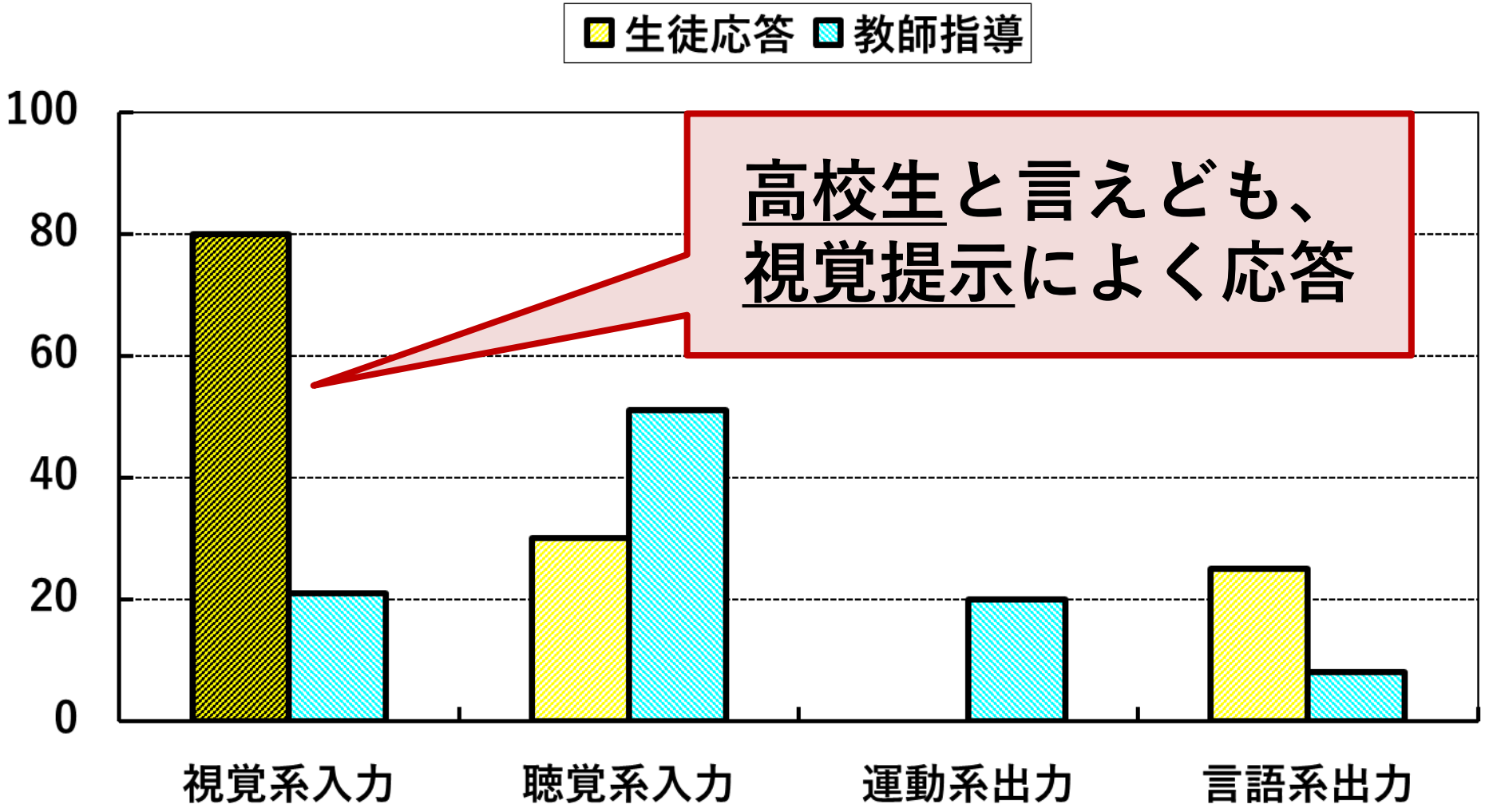
根拠：かかわり（*Lancioni*, 1982）



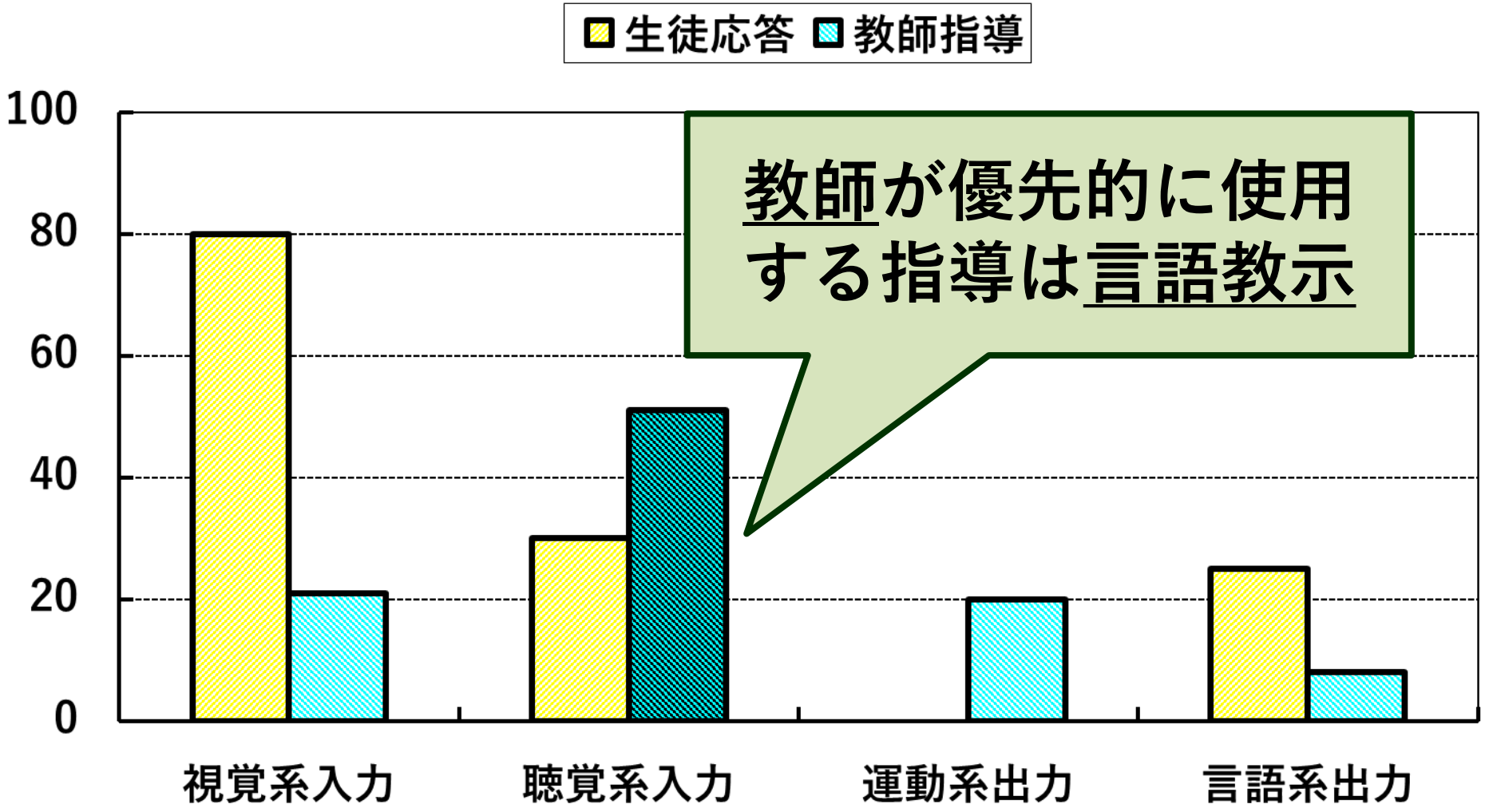
教師が児童生徒の適切行動を見逃さずにその芽ばえ反応を評価するとき、児童生徒の他者受容度が高まる。



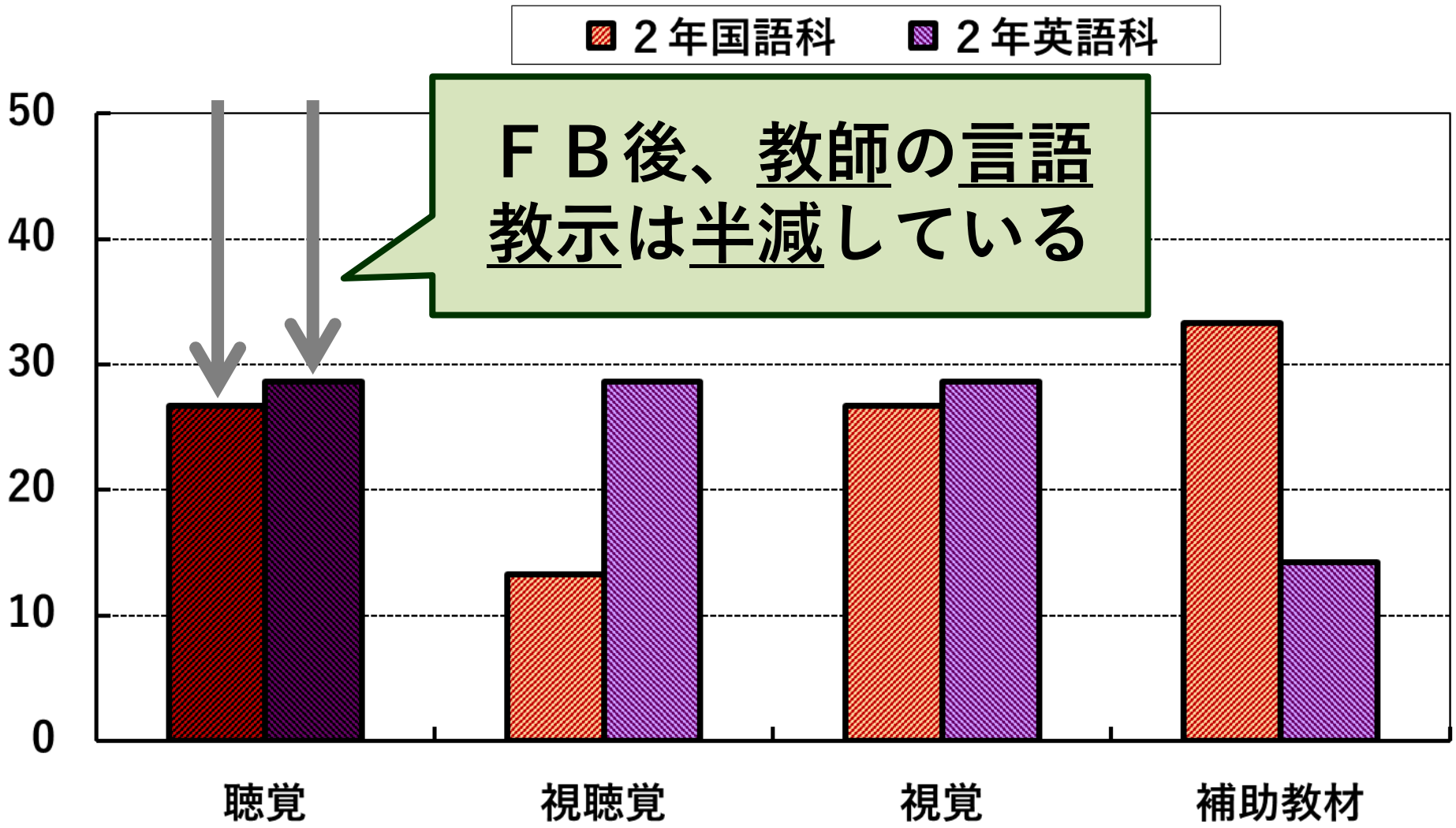
学びの基礎力 生徒側の事情



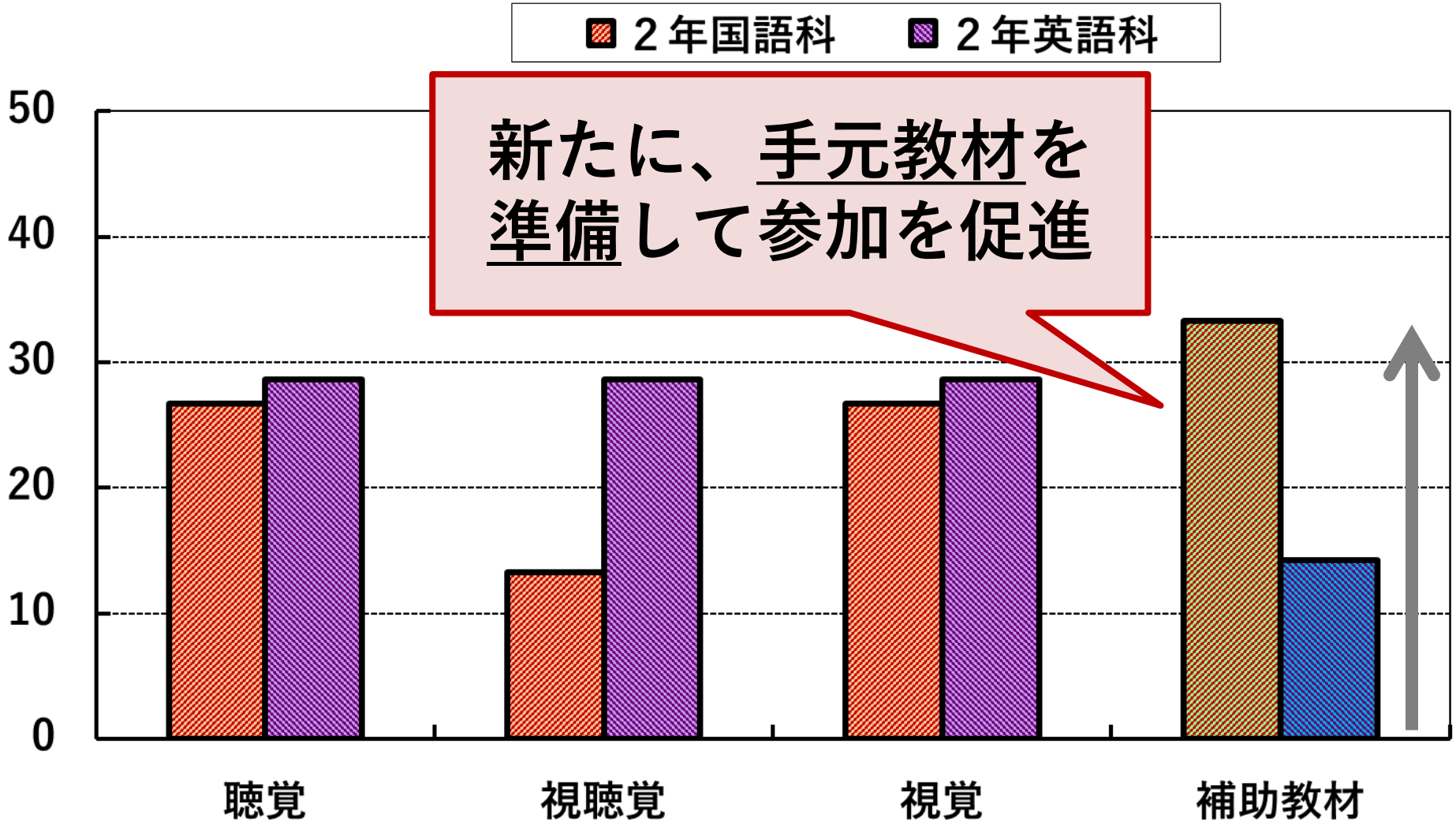
学びの基礎力 教師側の都合



授業内対話 教師の指導改善



授業内対話 教師の指導改善



新たに、手元教材を準備して参加を促進

教師の指導行動変化の波及効果

教師の指導行動の改善 刺激

教師が自発的・内発的に指導行動を自己変革するには

先行条件	自発行動	後続条件
児童生徒の様子	教師の指導行動	児童生徒の変化

- アセスメント
- 課題分析
- 機能分析
- 生態学的調査

- 環境調整
- 強化子の提示
- 般化の促進
- 自己管理指導

教師の指導行動の改善 反応

教師が自発的・内発的に指導行動を自己変革するには

先行条件	自発行動	後続条件
児童生徒の様子	教師の指導行動	児童生徒の変化

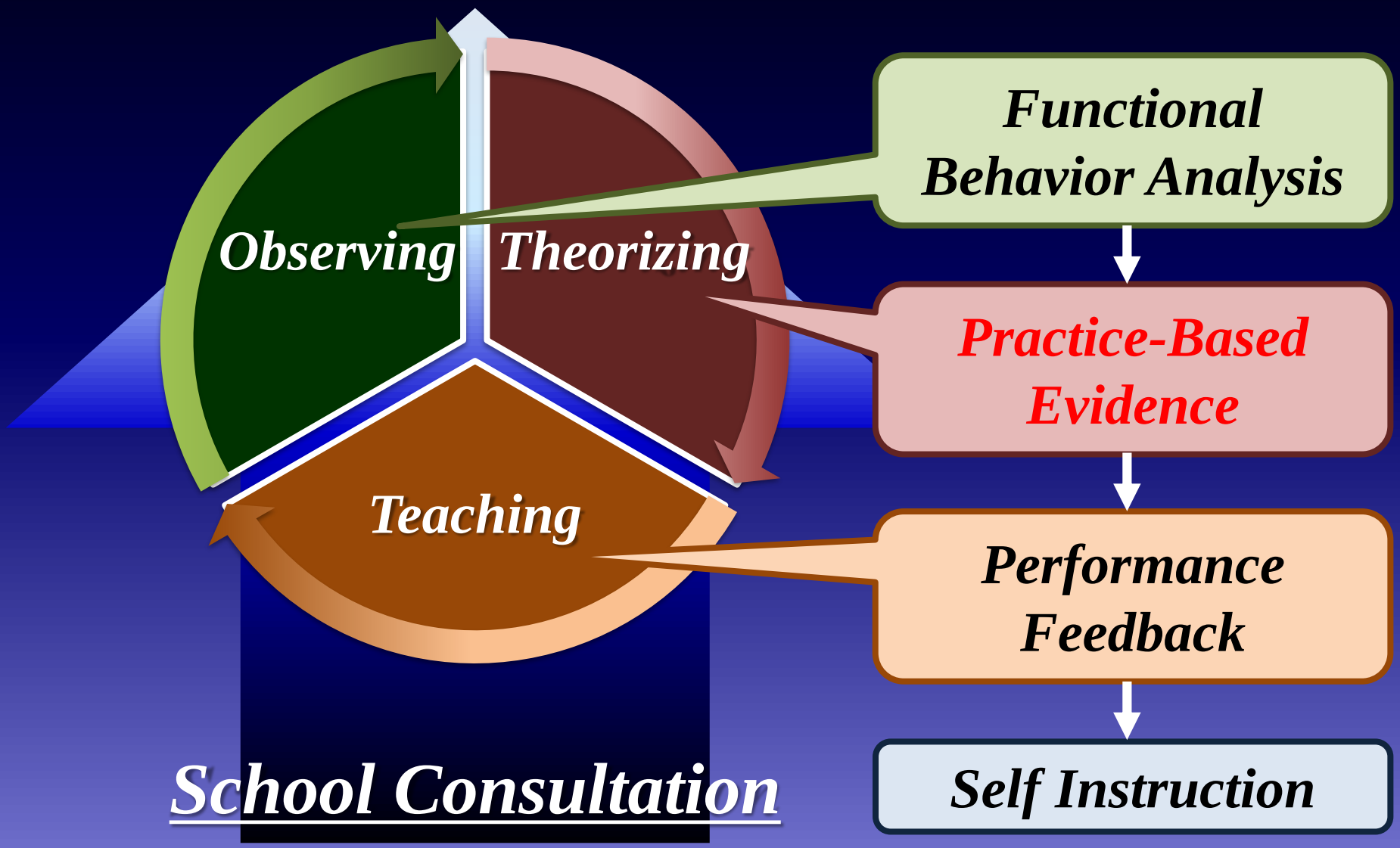
・多忙・疲労感

・孤立感

・評価機会限局

・歪な組織構成

In-Service Education & Training



家庭・教室・職場

日々の指導や支援

定型化された方法

保護者や関係者等

困りごと等の残遺

実践に基づく根拠を整理する作業

根拠に基づく実践を補強する作業

実験室・研究室

日々の研究活動

学術的問いの同定

客観・実証的方法

信頼・妥当・安全

科学者・研究者

研究成果の公表

意義を感じる契機になる

教育実践方法の革新

効果に動機づけられる

根拠に基づく実践を補強する作業

実験室・研究室

日々の研究活動

学術的問いの同定

客観・実証的方法

信頼・妥当・安全

科学者・研究者

研究成果の公表

客観的事実に基づくエンパワー

実践の意味づけ

↓

意図の汲みとり

↓

実践の見とおし

↓

授業改善の努力

学校改善の努力

地域発展の基盤

家庭・教室・職場

日々の指導や支援

・客観的記述・整理が必要
・定量・定性的分析が必要

定型化された方法

①集団に対する効果的方略

②負担感を過度に高めない

③効果を具体的に実感可能

保護者や関係者等

困りごと等の残遺

・手続と結果の対照が必要
・効果的手続の抽象が必要

意義を感じる契機になる

ＵＤの導入

①集団に対する効果的方略

②負担感を過度に高めない

端末の活用

③効果を具体的に実感可能

効果に動機づけられる

ＰＦの成功